

長崎県高等学校野球連盟大会特別規定及び細則

1. 本特別規定及び細則の適用は、長崎県高等学校野球連盟又は各支部主催の大会とする。
2. 県内大会は、公認野球規則、高校野球特別規則及び本連盟大会特別規定及び細則により行う。
3. 野球用具の使用については、日本高等学校野球連盟の高校野球用具制限に適合したものとする。
4. 大会に出場する学校は、その年度の大会参加者資格規定により、定められた選手資格証明書に、大会に出場する責任教師、監督、選手を記入し、大会開催前の決められた日までに事務局に提出しなければならない。
なお、選手登録資格に違反しないよう、また、内容に間違いがないよう細心の注意を払うこと。変更については、大会前日までに連絡の上（電話可）、所定の変更届を提出すること。負傷・病気等でやむを得ない場合以外は変更しないこと。
5. 大会出場校は必ず責任教師が引率して、大会期間中のすべての行動に対して責任を負う。
6. 大会出場校は、勝ち進んでいる間の練習試合はできない。
但し、夏以外の大会で、敗者同士、県外との練習試合は行ってよい。
7. チームとして、または責任教師、監督、選手が大会参加者資格規定に触れるか、選手資格証明書に記載されていない責任教師、監督、選手が出場したときは、それが分かった時点で相手校に勝利を与える。
8. 試合中トラブルが生じ、試合続行が不可能な場合は、トラブルを引き起こした方を敗者とし、没収試合とする。
9. 選手の健康管理上、試合中に選手の負傷その他健康上主催者が試合続行を不可能と認めた場合は、その選手の試合出場、又はチームの試合出場を停止することがある。
10. 試合が延長に入った場合は、12回まで実施し、13回からタイブレーク制度を実施する。タイブレーク制度は、決着がつくまで実施する。ただし、1人の投手が登板できる回数は15回までとする。決勝ではタイブレーク制度は実施しない。
11. 再試合や雨天等で試合順序を変更するときは、主催者が当該校の立場、条件などを慎重に考慮して決定する。また、学校側はこの決定に従い、応援者などがトラブルを起こさないように十分配慮すること。
12. 大会中の不測の負傷または疾病に対しては、応急手当を施すほかは、主催者は責任を負わない。
13. 試合は、原則として開始予定時刻の30分以上前からは行わない。
14. サスペンデッドゲーム（一時停止試合）は行わない。
15. 本大会ではコールドゲームを次のように定める。
 - ①得点差によるものは、5回以降10点以上、7回以降7点以上の得点差が生じた場合。
 - ②降雨または日没、その他の事情で試合の続行が不可能になった場合は、審判委員が試合の打ち切りを命じ、両チーム共に7回の攻撃を完了するか、或いは先攻チームが7回を終わった得点より後攻のチームの6回までの得点が多い場合はコールドゲームを適用する。6回以前であればノーゲームとする。決定は終了時に行う。
 - ③原則として決勝戦には適用しない。【天候等の事情で、決勝戦にも適用する場合がある】
 - ④新人戦については、各地区で別途定める。
16. 球場への入場、ウォーミングアップ、オーダー交換時の服装は、試合用のユニフォームとする。
17. 当日の試合予定校は、試合開始予定時刻の60分前にオーダー交換を行うので、それに間に合うように野球場に到着すること。到着次第、オーダー用紙を受け取り、速やかに必要事項を記入し本部に提出すること。オーダー交換は、主将と責任教師が立ち会うこと。
なお、第1試合については、オーダー交換を試合開始予定時刻の、40分前とする。
18. オーダー用紙は、姓のみでふりがなも記入する。同姓がいる場合は、フルネームで記入する。また、テーピングをするものには㊟、サポーターをするものには㊤と記入し、オーダー交換時に審判委員に許可を得ること。
19. サングラスについては、オーダー交換時に使用するものを持参すること。

20. ベンチサイドは、組み合わせの若番号を1塁側とし、責任教師1名、副部長1名、監督1名、登録選手20名、スコアラー1名（在學生で女子も可、制服もしくは試合用のユニフォーム着用）のほかには入ることができない。また、部長は当該校に在籍する校長、教頭、教諭、常勤講師、臨時的任用講師に限り、副部長は当該校の常勤教職員（主任実習助手・実習助手・事務職員も可）で、校長が適任者と認めた者とする。ただし、部長（責任教諭）が不在の場合は公式試合をすることができない。【副部長または監督が部長（責任教師）の条件を満たしているときはこの限りではない。】
21. 登録部員とノック補助部員以外の部員、ノッカー以外のコーチ、トレーナー、OB、保護者等は、ベンチやベンチ周辺、ロッカー室に近づく事はできない。また、フィールド外のブルペンであっても、登録以外の部員が捕手として入ることはできない。
22. シートノックは、本部より「シートノックを始めてください」の放送後のサイレンを合図として7分間とする。また、交代時の合図は、サイレン1回のみとするので注意すること。降雨またはグラウンドの状態、その他の理由により中止する場合もある。シートノックの際は、登録部員以外にノッカー1人（黒のシューズ）、補助員（在學生）5人以内（ユニフォーム・ヘルメット・白又は黒のシューズ着用）をグラウンドに入れてもよい。その際、フェア地域には入れないが、1・3塁での捕球とサブノックでの中継のみ認める。
23. 女子マネージャーが補助員をする場合は、必ず打者用のヘルメットとジャージを着用する。
24. 試合中、選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合が続行できないと審判委員が判断したときは、相手チームに事情を説明し、臨時の代走者を出すことができる。代走者は試合に出ている選手に限られ、投手を除いた選手のうち、打撃の完了した直後の者とし、相手チームに代走者の指名権はない。
25. 監督と選手は、審判委員のジャッジに対して抗議することはできない。審判委員に対する質問ができるのは規則適用上の疑問をただすとき認められるが、主将、伝令または当該選手に限る。
26. 走者やベースコーチなどが、捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。疑わしい行為があれば、審判委員は、当該選手と攻撃側のベンチに注意し、止めさせる。
27. 試合中、打者及び走者、ベースコーチは両耳付きヘルメットを着用すること。
28. バット引きは、できるだけ次打者を行かせること。その際、打者用ヘルメットを着用すること。
29. 捕手は、座って投球を受けるときは、必ず捕手防具一式を着用する。
30. ベンチへは、危険防止の上からも鉄棒、バットにはめるリングなどの持ち込みを禁じる。その他、携帯電話、テレビ、ラジオ、パソコン等の電子機器類の使用を禁止する。ベンチへは必要最小限の物のほかは持ち込まないようにする。
31. ベンチに持ち込むメガホンは、1チーム1個とし、監督のみ使用できる。
32. 球場内におけるバッティングは禁止する。キャッチボール、トスバッティング、ノックに限る。
33. 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは2組（4名）までとし、ゴロの捕球練習は認めない。
34. キャッチボール（4名）、ベースコーチ、次打者以外はベンチから出ないこと。危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手（特に次打者、ブルペンの選手）は、投手が投手板に位置したならばプレイに注目すること。次打者は素振りをやめること。
35. 大会運営上必要な事項は、運営委員（理事）で協議して決定する。（日没・降雨コールド、中止、ブルペン使用、応援について等）

《応援について》

1. 応援をする際は、相手チームをののしったり、審判委員に不服を叫んだりしないこと。
2. 横断幕、のぼり等はスタンドの後面に立てること。（個人名の入ったものは禁止する。）
3. 応援のための個人名の入ったボード等は、グラウンド側に向けないこと。
4. 応援の際は、太鼓1個・笛1個のみ使用を許可し、その他については使用を禁止する。ただし、ブラスバンドによる応援は認める。
5. アナウンス中の応援は控えること。